洋上アルプス

No.339　2023年6月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/

鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL　0997-42-0331

令和5年度 屋久島世界遺産地域連絡会議開催（5月18日）

5月18日（木）屋久島町議場にて、令和5年度屋久島世界遺産地域連絡会議が行われました。

地域連絡会議の主な議題は、①令和4年度の事業実績及び令和5年度の主な事業計画について、②関連する協議会・検討会等の情報共有について、③屋久島世界遺産地域連絡会議の部会について、④世界遺産地域管理計画に基づく管理状況の評価について、⑤世界遺産地域管理計画の改定について、⑥屋久島高層湿原保全対策について、⑦世界遺産登録30周年事業について等、各機関から説明がありました。

九州森林管理局からは、令和4年度の事業実績及び令和5年度の主な事業計画について及び屋久島高層湿原保全対策について説明がありました。

委員からは、花之江河には、宮之浦集落の「ほこら」が祀ってあり、かなり土台が浸食されているが、今後の対策はどうするのか意見が出されました。

会議の様子

九州森林管理局としては、「ほこら」の下流に堰（木柵等）を設置して浸食防止対策を実施する予定との回答がありました。

令和5年度 縄文杉周辺マナー指導を実施（5月1日）

縄文杉展望デッキの登山客

5月1日に屋久島山岳部保全利用協議会(※)の一員として、当保全センター職員2名が縄文杉周辺にて登山客のマナー指導を実施しました。

このマナー指導はGW期間に混雑が予想される縄文杉デッキ上で、登山客のマナー遵守や順路逆走等による混雑を緩和するために実施しているもので、デッキを訪れる登山客へ順路案内や、デッキ上での食事禁止等の呼びかけを行いました。

当日は、マナー指導にあたった10:30～13:00の間に約270名の登山客が訪れ、団体客や家族連れ等で賑わっており少しずつではありますが新型コロナウイルスによる影響の回復の兆しを実感しました。

今後、さらに登山客が増加することが考えられますので安全で快適な登山ができるよう関係機関との連携や定期的なパトロールを実施していこうと思います。

※ 環境省・林野庁・鹿児島県・屋久島町・屋久島観光協会・屋久島環境文化財団等で構成されている協議会

中央中学校で森林教室を実施（5月17日）

5月17日（水）に中央中学校体育館及び宮之浦嶽国有林217ヘ林小班（令和4年度8月頃間伐実施箇所）にて中央中学校の1年生58名に対し、屋久島森林管理署及び当保全センターで森林教室を実施しました。この森林教室は、屋久島の苗木不足問題を解決するための一環として行いました。

当日は2組に分かれて、それぞれの組ごとに担当職員が体育館での屋久島森林管理署・当保全センターの仕事の説明と、間伐箇所での現地見学の説明を行いました。

その後、生徒達が現地見学を通して気づいた事をまとめ、それらを交えながら間伐の必要性や森林の役割・公益的機能について全員で学習しました。

最後に今回の重要イベントであるスギの種まきを行いました。代表者14名が苗床への土入れ・水まき・種まきの順で作業を行いました。最初は土を触るのを嫌がる生徒もいましたが、段々と積極的に作業をしてくれました。

初めて種まきを森林教室に取り入れ、今後の苗の管理等について課題は残りましたが、生徒・屋久島森林管理署・当保全センター職員にとっても貴重な経験をすることができました。

現地見学

種まきをする生徒たち

令和5年度 屋久島世界自然遺産地域等のモニタリング調査概要

当保全センター及び九州森林管理局で実施する令和5年度のモニタリング調査の概要についてお知らせします。

【目的】

世界自然遺産に登録された屋久島の森林生態系を適切に把握し維持していくため、科学的なデータに基づいた順応的管理を行っていく必要があります。平成11年度から行っている垂直方向の植生モニタリング調査を引き続き実施するほか、各種モニタリング調査を行い、学識経験者等の意見を聞きながら遺産地域の保護・保全に資するものです。

【業務概要】

1. 屋久島南部地域の垂直方向の植生モニタリング調査

南部地域の垂直方向の植生モニタリングを行い調査結果をとりまとめ、今回と過去4回(平成14,19,24,29年度)との比較・分析を行い、評価します。

2. 高層湿原の植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討

●小花之江河に設置した調査プロットにおいて、植生保護柵内外のモニタリングを実施し動向予測を行い評価します。 ●令和元年度に設置した水の収支、地下水位、水温モニタリング調査、湿原地形調査及び試行的保全対策箇所の土砂、枝条等の堆積状況をモニタリングし評価します。 ●高層湿原保全対策検討会を開催します。

3. 著名木(夫婦杉）の樹勢診断把握

樹木医による地上部の衰退度判定、倒木等の危険度判定等を基に総合診断を実施します。

4. 森林生態系における気候変動の影響のモニタリング調査

各機関のモニタリングデータの収集、気象庁アメダスによる気候変動等のデータの収集、分析等を行い、動態予測及び脆弱性の評価を行います。

サツキは渓流植物なのか？ ―サツキの分布と特徴―

崎尾均（新潟大学佐渡自然共生科学センター・Botanical Academy）

サツキ（*Rhododendron indicum* (L.) Sweet）はツツジ科の半常緑低木で関東以西，中国，九州地方（四国は除く）まで分布するが，本州中部の太平洋岸に多く，中国地方や九州本土では稀である．

しかし，分布の南限である屋久島では，多くの自生するサツキを見ることができる．

サツキは，5月から6月にかけて先端が5裂している漏斗型の赤い花を咲かせる．めしべが1本とおしべが5本あるのが特徴である（写真1）．ヤマツツジはおしべが10本あるので見分けがつく．

写真1　安房川中流の中洲のサツキ群落．サツキの花は1本のめしべと5本のおしべを持つ．

葉は細くて小さく，両面に毛が生えており，渓流に適応した形であると言われている．

園芸でよく利用されている植物で，古くから多くの園芸品種が作られている．

最近の研究では，屋久島のサツキはヤクシマヤマツツジから，本州のサツキはヤマツツジから分化したとされている．

サツキの調査を始めることになって，最初に行ったことは文献調査であった．

サツキに関する文献は，大部分が園芸品種や栽培方法などに関するもので，自然分布や生態，生活史，更新に関するものはほとんど見られず，植物図鑑や植生調査の中で取り扱われていたりする程度であった．

屋久島ではホソバハグマ-サツキ群集として，渓流沿いに分布するとされている（写真2）．

本州におけるサツキの分布も河川や渓流沿いで，水辺の植物として広く認識されている．

このような中で，屋久島ではサツキが山頂にも普通に分布するという情報が得られた．これが事実なら，サツキの生息地などの情報をあらため，生態的な特徴も調べ直す必要がある．

一般に，ツツジの仲間は日当たりの良い場所を好む樹種が多く，サツキも林冠木によって日射が遮断された暗い林内にはほとんど分布していない．

サツキが普通に分布している河岸は日当たりが良いが，山頂も日当たりの良い点では共通している．

ほんとうにサツキは河川沿いと山頂という全く異なった環境で生息しているのであろうか．

この疑問を解明するために，まず屋久島におけるサツキの分布状況を調べるところから，この研究を始めた．（つづく）

写真2　宮之浦川中流のサツキ群落．サツキは増水の時には流水に浸かるような水際に分布する．

屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和3年度）

[標高400mプロット（愛子岳東側北向き平行急斜面）] 確認種数：73種（平成28年度：58種）

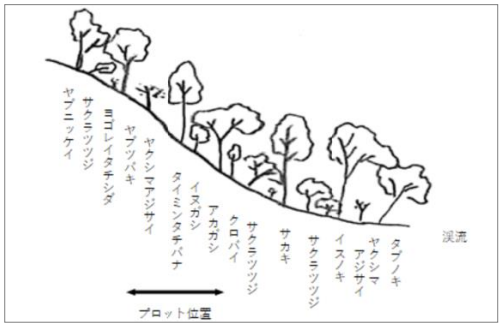
◆調査結果の概要　照葉樹を優占種とする広葉樹二次林である。高木層はイスノキが優占し、スダジイも比較的健全な個体が多い。この5年間で大きな攪乱が起きずに林冠部が健全であるため、林内は鬱閉して暗く、照度不足で低木層の本数が極端に少ない。しかしスダジイの萌芽枝に健全なものが多く、草本層はヤクシマアジサイが優占する等、シカの生息密度低下によると推測される変化が見られる。特徴的な種として、ハイノキがこの標高から出現し、スジヒトツバ、ヘツカリンドウは当調査地でのみ確認されている。

◆優占種の変化

階層区分	平成13年度	平成18年度	平成23年度	平成28年度	令和3年度
高木層（7.0m以上）	イスノキ	イスノキ	イスノキ	イスノキ	イスノキ
亜高木層（3.0m～7.0m）	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ
低木層（1.2m～3.0m）	タイミンタチバナ	タイミンタチバナ	サクラツツジ	タイミンタチバナ	タイミンタチバナ
草本層（1.2m未満）	イヌガシ	ヤクシマアジサイ	ヨゴレイタチシダ	ヨゴレイタチシダ	ヤクシマアジサイ

H28（5年前）のプロット内

R3（本年度）のプロット内



標高 400mプロットの群落縦断図

グリーンサポートスタッフ（GSS）巡視記録より　～花と景色～

サツキ

サツキは5月17日、蛇之口滝までのパトロール中に滝付近で見つけました。

旧暦の5月（今の暦では6月）に開花するので、かつては「サツキツツジ」と呼ばれていたそうです。屋久島での分布等は当紙に掲載中の「サツキは渓流植物なのか？」をご覧ください。

ハイノキ

ハイノキは5月26日、宮之浦岳までのパトロール中に見つけました。

名前の由来は、枝葉を燃やすと良質の木灰が得られることからだそうです。屋久島では標高500mから見られ、屋久杉などの下層木として、よく見かけます。